

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	① 語彙を増やし、考えを交流する言語活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「授業中、集中して取り組んでいる」では、肯定的回答が94%であった。一方、一部の児童は座って話を聞いていても、書くや友達と話し合う活動などに取り組むことが難しい児童がいる。 ② 児童アンケート項目「文章をすすんで書いている」の肯定的回答が85%と9割を下回っている。書くことに苦手意識のある児童が一定数いることから、意見や考えを書く活動で学習支援アプリを用い、内容の共有を取り入れている。	① 教材に対して自分の考え・思いをもった上で学習に参加できるように、初めて読んだ後に感想や疑問を書き出すことを取り入れてきた。共感的に読むことや自分と比べながら読むことなどの視点を示してきた。内容によっては、友達と話した後に書く活動を取り入れるようにし、今後のアンケートで評価する。 ② 書く活動では、学習支援アプリを用いてメモを作成し、構成・下書きなど継続的に活用する。また、共有した友達の作品に触れることにより自分の考えやまとめに生かさせるようにし、今後のアンケートで評価する。
社会	① 基礎的・基本的な学力の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた課題把握と考えの共有 【ICT 機器の活用】	① 意欲的に学ぶ児童が多いが、大陸名・国名や社会科用語などの定着が不十分である。また、資料の数値を読み取ることはできるが、そこから考えたことや判断したことを説明したりまとめたりすることが課題である。 ② 学習支援アプリを活用し、資料を見て課題を把握したりお互いの考えを共有したりする活動では、多くの児童が意欲的に取り組んでいた。資料から効率的に情報を読み取ることが課題である。	① 用語を復習するミニワークを行う。また、読み取った数値に対して、最大値・最小値の理由や変化の理由など考える視点を適宜示すようにする。 ② 資料の提示、考えの記入として ICT 機器を活用する。資料を読み取る手順を確認してから読み取りに入るようにする。また、読み取ったこととそこから考えたことを分けて記述できるようにする。
算数	① 「問題発見」「自力解決」「集団検討」「統合的・発展的な考え方」の学習過程を主体的に取り組めるような授業形態・内容・方法の工夫 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた考えの共有 【ICT 機器の活用】	① 東京ベーシック・ドリル算数4年診断シート Aにおいて、正答数7割以上の児童の割合が4月実施で41%、6月実施で68%となっている。 ② 数直線や立体の変形について、教科書コンテンツを利用することで視覚的に演算決定を行ったり、辺と辺や角と角の関係に気付いたりできるよう工夫してきた。	① 授業において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容や単元の前時までの学習内容を振り返る時間を確保し、より多くの児童が「自力解決」に主体的に取り組めるようにする。診断シート B および C の実施で、正答数7割以上の児童が80%を上回ることを目指す。 ② 今後も演算決定や図形の変形などで活用する。さらに、共有する場面で使用することで考えを深められるようにする。
理科	① 問題解決の過程を通して、理科学的な資質・能力の習得 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた考えの共有 【ICT 機器の活用】	① 変化とその要因との関わりに気付くよう、条件を関係付けながら実験方法を確認した。種子の発芽や成長の条件については、条件を制御したらよいのか具体的に考えることが難しい児童が少数いた。 ② 児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。	① 観察・実験ごとに、条件の違いや予想をノート等へ書き込む。毎回の実験で、条件制御の考え方を確認する。実験結果をふまえて、変化と要因の関わりを考え、考察にまとめられるようにする。 ② 資料の提示、振り返りの記入として ICT 機器を活用する。学習支援アプリを活用し、予想や考察を共有して自分の考えを深められるようにする。
音楽	① 学ぶ楽しさを実感できる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合は95.3%で、昨年度より3名増加しており、多くの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ② 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して否定的な回答をした児童の割合が4.2%で、昨年度より2.2ポイント増加している。要素と曲想との関わりについて考えたり、曲想にふさわしい表現を考えたりすることに難しさを感じていると考えられる。特に器楽の技能の習熟に関し、一人一人の学習過程に応じ	① 共通事項をもとに指導内容を焦点化し、相互意見交流や音楽表現を介した交流を通して、音楽表現を深めていく。録音や録画を活用して、演奏を振り返り、次の課題の見通しをもって主体的に活動できるようにする。 ② 要素とその働きの視点から分析的に示し、言葉と音をつなげることで考えを広げ、深めていくことができるようにする。ICT 機器を活用し、思いや意図を視覚化できる教材教具を用いる。また、児童が自身の学習を評価し、自分自身で課題を選択、設定できる

		た支援を充実させたり、知覚・感受したことを交流したりして、発想へ進展させていく。	ようにすることで、主体性をもって技能の習熟を図る。
図画 工作	<p>① 学ぶ楽しさを実感できる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 振り返り活動の充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童の割合が 100%であった。この事からすべての児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考え。クラスメイトと協力して疑問点や課題点を解決することができていない児童が多くいるため、児童同士の効果的な対話を促すための工夫が必要である。</p>	<p>① 針金や電動糸のこぎりなど、新しい材料や用具の扱いに慣れるための活動を充実させ、児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができるようにする。今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答が 100%近く得られるようにする。</p> <p>② 作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。題材末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
体育	<p>① 自己の課題に合わせた体育的活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童がほとんどであった一方で、「あまりそう思わない」の否定的な回答をした児童もいた。少数ではあるが、すすんで学習に取り組めていない児童が意欲的に取り組めるように工夫が必要である。</p> <p>② 動きのポイントを理解していても、自己の課題を適切に把握したり、その後の運動に生かしたりすることができていない児童が多くいるため、自身の実態を把握することが必要である。</p>	<p>① 運動することに苦手意識をもっている児童も意欲をもって取り組むことができるように、それぞれの運動領域の中でも取り組みやすい技や動きをはじめに紹介したり、主運動につながる運動に取り組んだりする。また、ボール運動などの領域においては、ルールを簡易的にしたり、児童が話し合っってルールを考案したりしてすべての児童が取り組みやすい工夫をする。</p> <p>② 運動のポイントを写真や動画で示すことに加え、ポイントと自己の動きを比較できるように、ICT 機器を活用し、自分の動きを把握できるようにする。また、撮影した映像などを用いてポイントと照らし合わせながら振り返りを行う。</p>
家庭	<p>① 主体的に自己を見つめ、生活に活かそうとする授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② ICT 機器を用いた、理解を深める授業の充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童がほとんどであった一方で、「あまりそう思わない」の否定的な回答をした児童も少数いた。生活に活かしていきたいという気持ちにつながるような学びに取り組んでいきたい。苦手な児童への個別の手だてを講じていくことが必要である。</p> <p>② 動画を何度も見て、挑戦することを価値付けしたことで、粘り強く取り組む児童が多く見られた。動画を活用し、活動の進捗を自由にしたことで、意欲的に取り組んでいた。</p>	<p>① 技術面に関しては個人差があるため、早く作業が終わる児童と時間が必要な児童に対してそれぞれの対応が大切である。学校支援ボランティアと連携し、全員が「できた」と実感できる個に応じた指導をしていき、引き続き 9 割以上の肯定的な回答を継続できるようにする。</p> <p>② 指導者の手元をテレビ画面に映したり手本になる写真や動画を繰り返し確認したりするなど、さらに ICT 機器の活用をすすめる。振り返りの内容を蓄積して振り返りやすくすることで、自身の成長を感じ取れるようにする。</p>
外国語	<p>① 考える時間が確保された授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が約 95%であり、多くの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>② 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童の割合が約 95%である。残りの 5%の児童が意欲的に授業に取り組むことができるような授業づくりを行っていくことが課題である。</p>	<p>① 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して指導を行い、児童が意味を考えながら英語を聞いたり、自分で考えて自分の思いに合わせて英語を発したりする機会を大切に授業を行う。</p> <p>② 児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT 機器で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする。</p>
道徳	<p>① 主体的に自己を見つめ、生活に活かそうとする授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p>	<p>① 資料から登場人物の気持ちに寄り添ったり場面から様子を想像したりすることはできるが、自己の生活に結び付けて今後に活かそうとすることが難しい児童が多い。</p> <p>② 自分の考えをもつことに時間を要したり、表現したりすることに</p>	<p>① 授業の導入や教師の説話で児童の身近にあるような話題や出来事を取り上げ、児童が自己の生活に結び付けて考えやすいように授業を工夫する。</p> <p>② 学習支援アプリ等を用いて、書くことに苦手意識がある児童も自</p>

	② ICT 機器を用いた、自己の考えを深める授業の 充実 【ICT 機器の活用】	難しさを感じている児童が多い。	分の考えを表現しやすいようにする。また、学習支援アプリを活用して <u>考えを共有する時間を設け</u> 、自己の考えを深める機会を増やす。
--	--	-----------------	--